



薬剤部門に配置されたオーダリングシステム端末 FLORA310

急性期疾患の拠点病院を支える

病院情報ソリューション「HIHOPSシリーズ」

ハイホップス

医療法人財団 大樹会 総合病院 回生病院

厚生労働省による「医療の情報化」プロジェクトが推進されるなか、いま多くの医療機関では医療サービスのIT化を実現するため、オーダリングシステムや医療事務システム、電子カルテシステムなどの導入が本格化しています。

香川県坂出市において、急性期疾患を主とした拠点病院として親しまれている回生病院では、日立の病院情報ソリューション「HIHOPSシリーズ」を導入し、まずはオーダリングシステムと医療事務システムの稼働を開始。医師や各部門のスタッフ、患者さまにもわかりやすい診療情報の共有を図りながら、近い将来の電子カルテ導入を視野に入れた、質の高い医療サービスと、患者さま主体の医療環境の実現をめざしています。

“24時間断らない医療”で地域の安心を支える

1957(昭和32)年の開院以来、香川県中讃(ちゅうざん)地域における中核病院として、急性期医療を担ってきた医療法人財団大樹会 総合病院 回生病院(以下、回生病院)25を数える診療科目と充実した医療機器を備えた同院では、最先端の医療技術を習得したスタッフが「信頼され、愛される病院」をめざして、日々質の高い医療サービスの提供に取り組んでいます。

「幅広い診療科目と468床の入院設備を擁する当院は、“24時間断らない医療”を理念に掲げ、重症の紹介患者さまや、救急車搬入患者さまを受け入れる二次救急病院であることが大きな特長です。そのため、ここ数年は地域の皆さまに、より高度な医療を提供するためICU(集中治療室)の併設や、救急室の拡充整備などを図ってきました。

また一方では、地域のかかりつけ医の先生方と連携し、質の高い地域完結型医療をめざす開放型病院としての活動を推進しながら、レントゲン画像や病理



診療部 泌尿器科 ICU部長

秋山 欣也 氏



医療法人財団 大樹会 総合病院 回生病院
 住所 / 香川県坂出市室町三丁目5番28号
 理事長 / 松浦俊子
 病院長 / 小川維二
 診療科目 / 内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、
 神経科、神経内科、精神科、小児科、外科、
 整形外科、リウマチ科、脳神経外科、
 皮膚科、泌尿器科、肛門科、産婦人科、
 眼科、耳鼻咽喉科、気管食道科、放射線科、
 リハビリテーション科、性病科、麻酔科、
 心療科、形成外科
 病床数 / 468床(一般病床351床・精神病床117床)



院 長
小川 維二 氏

組織画像を使った地域連携の遠隔医療診断システムなども積極的に導入しています。

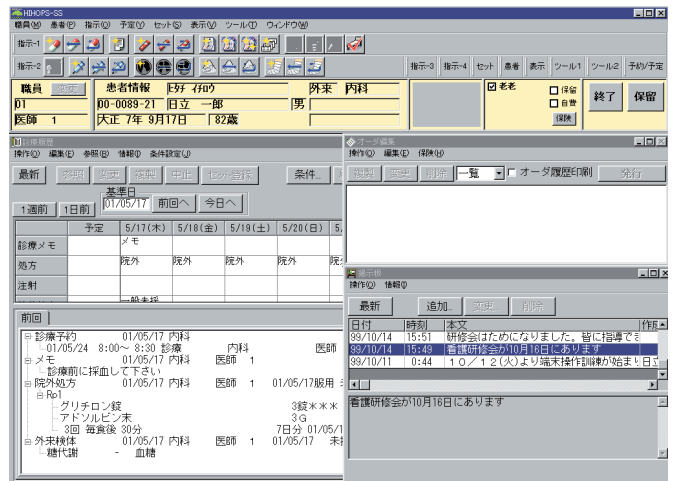
今回、日立さんの協力を得て構築した新システムは、こうした医療現場のIT化、地域連携のシステム化を実現するための第一歩であり、近い将来の電子カルテ導入を踏まえた、医療改革の大きなインフラになるものだと考えています」

(回生病院 院長 小川 維二氏)

地域連携医療の核となる病院として、電子カルテの導入を検討していた回生病院は2001年、IT運用基盤の整備と患者さまサービスの向上を図るため、まずはオーダーリングシステムと医療事務システムの導入を決断。数社のパッケージシステムを比較した結果、日立の病院情報ソリューション「HIHOPSシリーズ」を採用しました。

信頼性と拡張性の高いUNIX環境が決め手に

総合病院や大学病院など、幅広い医療機関での導入実績を誇るHIHOPSシリーズは、導入規模や、お客さまニーズに合わせ、信頼性の高いUNIXサーバ環境と、コストパフォーマンスに優れたPCサーバ環境が選べるのが大きな特長。電子カルテシステム「HIHOPS-HR」、診療支援システム(オーダーリングシステム)「HIHOPS-SS」、医療事務システム「HIHOPS-CS」などの各システムがシームレスに連携しながら、医師だけでなく、各部門のスタッフや患者さまにも、わかりやすい診療情報の共有を実現



HIHOPS-SS基本画面例

することで、効率的なチーム医療をトータルに支援するソリューションです。

「当院にとっては、将来的な電子カルテの導入を踏まえた基盤整備ということで、システムの信頼性と拡張性を最も重視していました。その点、日立さんのHIHOPSシリーズだけがUNIXサーバの選択肢があり、400床規模の当院にとっては将来的にも信頼できるシステム基盤が構築



事務部 医事課 電算室 係長

田辺 武博 氏

診療行為	数量	内容	期間 / 回数
/1005		基本料1
045		外来診療料1
028		負担金算定1
		伝票合計	1446円
/1301		指導料1
0113000310		ウイルス疾患指導料11
		伝票合計	0円
/8001		検査1
0160088410		E C G 1 2	一回目の診療
0160082610		肺気量分画	呼吸機能検査等判断料
0160082710		フローボリューム1
		伝票合計	450円
/8010		検査1
0160008010		末梢血液一般	血液学的検査判断料
0160008210		検	検体検査管理加算<1 B-V

HIHOPS-CS会計業務画面例



FLORAパソコンを活用して医療事務をサポートするスタッフの皆さん

できると判断しました。

オーダーリングシステムでは、外来診療科と病棟ステーション、コメディカル部門からのオーダーを、それぞれ薬剤部門、検査部門、栄養(給食)部門へと伝達させていますが、これまで看護師や事務スタッフが行っていた伝票転記やチェックの煩雑さが大幅に軽減されただけでなく、医師からの処方や検査オーダーがダイレクトに反映されるため、伝達ミスもなくなり、患者さまの待ち時間も短縮されたと、各方面から非常に喜ばれています。

(事務部 医事課 電算室 係長 田辺 武博氏)

一方、オーダーリングシステムと連携した医療事務システムは、複雑な業務をビジュアルな画面とやさしい操作環境で効率的に行えるだけでなく、頻繁に行われる法改正などにもスムーズに対応。オーダーリングシステムでデータを発生源でとらえることにより、患者ごと・疾病ごとの正確な収支管理、正確なレセプト(各医療機関が健康保険組合や市町村などに診療報酬を請求する際の明細書)作成にも貢献しています。

「今回のシステム導入に当たり、従来から他のシステムで行って

いた各種統計資料、例えば香川県内の入院患者数や年齢構成別の患者数、県単位の提出書類などの出力を、HIHOPSでもできるように、日立さんにカスタマイズしていただきました。これにより、従来からの業務も新システムで継続して行えるようになり、事務作業のトータルな効率化に役立っています」

(事務部 事務長 庶務課長 大平 義富氏)

医師と患者との信頼関係が一段と向上

一方、オーダーリングシステムを使う医師としての立場から、診療部 泌尿器科 ICU部長 秋山 欣也氏は、こう指摘します。

「実際にオーダーリングシステムや電子カルテを導入すると、今まで医師が行うことのなかった、さまざまな入力作業が発生します。しかし、この手間を大変だと考えてしまうと、そこで医療のIT化やネットワーク化は進まなくなってしまいます。最終的に電子カルテを導入した際には、すべての診療情報がシームレスに一元管理され、医師にもスタッフにも、患者さまにも多くのメリットが

期待できるわけですから、医師としてはその大きな目標に向かって、デジタルを導入した際の有効な部分とアナログならではの得意な部分とを、はっきり見極めながら

医事システム	オーダーシステム	調剤支援システム [薬剤部門]
<p>新患受付・再来受付 オーダー管理取り込み レシート出力 医事統計など カルテ1号紙 外来基本票 収納日計表 各種統計表 レシートレセプト電算処理 会計カード</p> <p>オートエンボッサ 医事サーバ H9000V</p> <p>再来受付機(2台) ディスクアレイ装置 SANRISE</p>	<p>【外来診療科】</p> <p>処方オーダー 検体検査オーダー 診療予約オーダー 注射オーダー 診療歴・検査結果参照、など 病名オーダー 院外処方箋 注射指示書 検査結果リスト、など</p> <p>【病棟ステーション】</p> <p>カルテ控用 プリンタ</p> <p>処方オーダー 検体検査オーダー 入退院オーダー 食事オーダー 病名オーダー 採血・検尿指示書、など</p> <p>【コメディカル部門】</p> <p>処方監査・処方箋出力 検査受付・指示書出力 診療歴・検査結果参照、など</p> <p>オーダーサーバH9000V ディスクアレイ装置SANRISE</p>	<p>処方オーダー受信 調剤支援・薬歴管理 薬剤情報提供書出力 薬袋印字機・ 自動調剤分機 コントロール</p> <p>FLORA 310</p>
<p>病院概要とPC台数 病棟 468床、8病棟 診療科 13診療科 PC台数 70台(オーダー:55台、医事:15台)</p>		<p>臨床検査システム [検査部門]</p> <p>検査オーダー受信 検体受付 検査結果入力 検査分析機コントロール 採血管準備システム</p> <p>FLORA 310</p> <p>採血管準備システム</p>
		<p>栄養管理システム [栄養部門]</p> <p>食事せん発行 食数管理 献立管理 食札出力</p> <p>FLORA 310</p>

回生病院医療情報システム構成図



事務部 事務長 庶務課長

大平 義富氏



地域医療連携を実現した、テレラジオロジーシステム(遠隔画像診断システム)



離れた場所からの的確な診断を可能とするテレパソロジーシステム(遠隔病理診断システム)

対応していくことが重要だと思います。

現在はまだ、オーダリングシステムの有効性についてしか述べることはできませんが、私自身は、他の科での患者さまの診療履歴を端末上からリアルタイムに見ることができるようになった点が非常に嬉しいですね。特に当院は、入院も外来も各科カルテなので、従来は的確な意思決定を行うため、対象とする患者さまのカルテを、いちいち他の科から取り寄せなければならなかったのですがもうそんな必要はなくなりました。また、検査の予約をする際も、患者さまが別の科で行う検査スケジュールも含めて、直接話しながらその場で決定できる点が喜ばれています」



さらに回生病院では2004年2月より、オーダリングシステムに「病名オーダシステム」を、医療事務システムには「レセプト電算処理システム」を新規に追加してテスト稼働を開始しました。病名オーダシステムの導入によって、「レセプトレベルでチェックしていた病名が、オーダーレベルで

オーダリングシステムと医療事務システム、それぞれのサーバとして活躍するHITACHI9000VとディスクアレイシステムSANRISEシリーズ

チェックできるようになり、患者さまにとっては禁忌薬の心配がなくなり、医療過誤の危険性も回避できる(秋山氏)とのことです。

インフォームドコンセントのさらなる充実も期待

「今回のシステム導入のメリットは、薬や検査、会計などに要する待ち時間を短縮できたことによる患者さまサービスの向上と、蓄積された診療履歴データベースを活用したインフォームドコンセントのさらなる充実にあると考えています。また病院経営の観点からは、蓄積されたレセプトデータや財務データから得られる情報を、新たな経営戦略へと有効活用できる基盤が整備された点が大きいですね。

本当の意味でのシステム化のメリットは、近い将来に予定されている電子カルテシステムの導入を待つしかありません。しかし導入後には、急性期病院と診療所のIT連携が実現し、互いのカルテが見られるようになることで、患者さまに対して今までにない大きなメリットをもたらすことは間違いありません。当院としては、そういった地域医療連携の充実や、質の高い医療サービスの提供を実現するため、今後も患者さまのメリットを最優先に考えた、積極的なシステム化を推進していきたいと考えています」

(田辺氏)

地域医療の中核病院として、患者さま本位の質の高い医療サービスを提供しながら、健康で豊かな生活を支える一生涯のパートナーとして、積極的なシステム化を推進する回生病院。その活躍をこれからも、日立は力強くサポートしてまいります。

お問い合わせ先

(株)日立製作所 四国支社 情報システム営業部 公共システムグループ
 担当:三井
 TEL(087)836-0514 FAX(087)836-0540
 E-mail:mii@gm.shikoku.hitachi.co.jp

HIHOPSの情報提供サービス
<http://www.hitachi.co.jp/app/iryou>